

ワーケーションの考え方 (P.10~)

社会の変化※の中で、時や場所を選ばない自由な働き方で新しいライフスタイル実践の契機となり、組織に縛られることなく人が個性を発揮し、社会変革、イノベーションにつながるための「仕掛け」である。

※人々の価値観の変化、個人と企業、地域の関係性に变化、個を大切にする風潮(P.2~)

Workation = Work + Innovation

「ワーク(Work)」を狭い意味での仕事(オフィスでのデスクワークなど)に限定せず、「個人や企業等による価値創造」と定義する。重要な役割を果たすのがワーケーターと地域をつなぐことのできる「コーディネーター」である。

ワーケーションでめざす社会 (P.11~)

「誰もが自分を活かせる社会」

- 関係人口が増加し、地域内外の住民/企業の共創でイノベーションが生まれる社会
- 個が覚醒し、組織が活性化している社会



「とこわか(常若)ワーケーション」

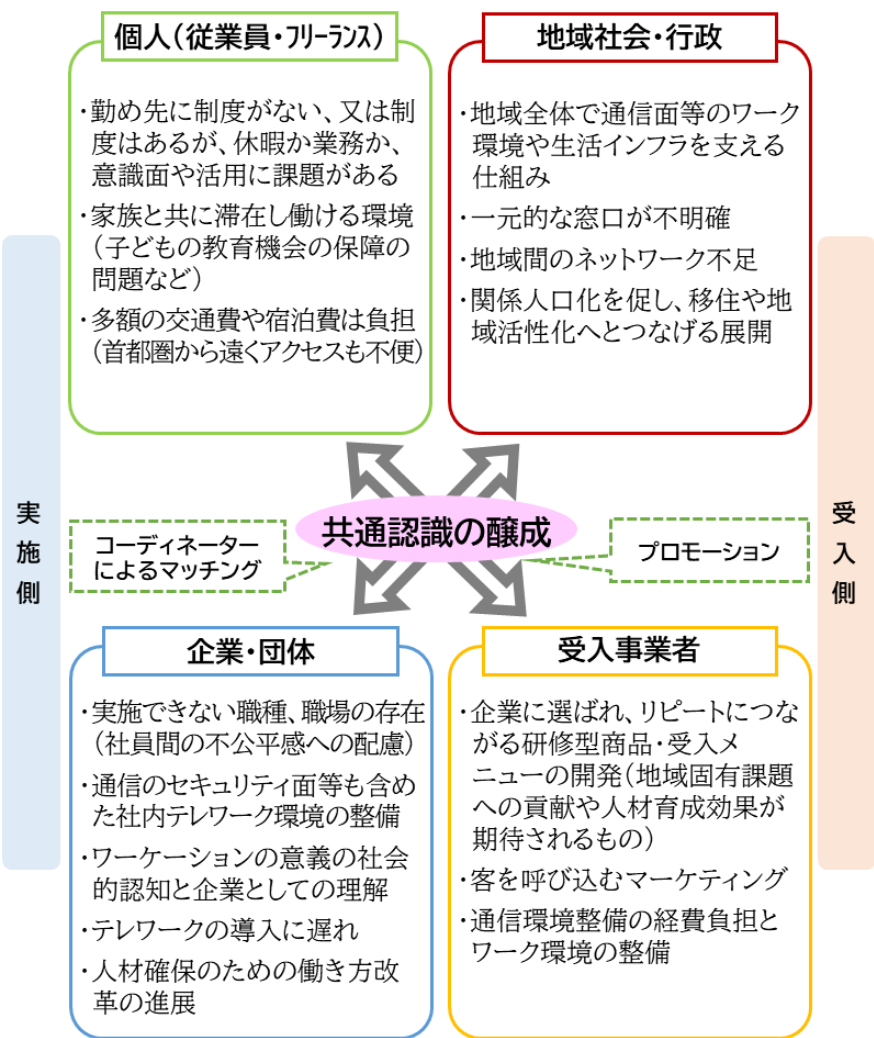
—とこわか(常若)の地・三重で work(ワーク) + innovation(イノベーション)—



「とこわか(常若)」をイノベーションに通じる言葉として、「組み直し(創造的破壊と新結合)、変化による継続である」と読み解き、三重県におけるワーケーションに関わるすべての人、企業、地域社会が瑞々しい活力(継続のための原動力)に満ちあふれ、持続可能であることをイメージして命名。(P.12~)

“とこわか(常若)ワーケーション”の課題 (P.17~)

四方よし→関係者すべての事業継続性、持続可能性を重視



推進するための4つの柱の取組提案 —関係者の共創に向けて— (P.20~)

環境整備

- 実施先として選ばれるための受入体制の整備
 - ⇒ ニーズに対応した企業向けメニューの作成
 - ⇒ 多拠点生活をサポートするプラットフォームとの提携
 - ⇒ 地域ぐるみでの受入体制の構築
- ワーク環境の整備
 - ⇒ テレワーク環境(ハード)の整備
 - ⇒ エリア全体でのサービス・サポート

- 地域の産業の革新や担い手確保につながる体験企画
 - ⇒ DXによる既存産業のイノベーション
 - ⇒ 地域産業の支援者や担い手の確保・育成
- 教育、医療など生活インフラの提供
 - ⇒ 滞在者の子ども向けの教育機会の保障
 - ⇒ 地域の施設を活用した医療サービスの提供

情報発信

- 国内外へのプロモーション
 - ⇒ ウェブサイト等によるPR

- 企業・団体への働きかけ
 - ⇒ 法制度や全国の事例についての情報提供の充実
 - ⇒ 人材確保の観点からの県内企業への多様な働き方の呼びかけ

人材確保・育成

- 地域と人をつなげるコーディネーターの確保・育成
 - ⇒ 地域での活動を副業等として位置付ける企業との連携
 - ⇒ 地域の人や事情に通じたコーディネーターの育成

- コーディネーターの情報交換・交流の拠点づくり
 - ⇒ コーディネーターと関係者が集う情報交換・交流拠点の整備とそのネットワーク化

共通認識に基づく共創

- “とこわか(常若)ワーケーション”の「魂」づくりと共有 ⇒ 「哲学」を論じる場づくり

推進体制と役割分担 (P.26~)

- ・関係者は多岐にわたることから、県はもとより、地域ごとに、これらを束ねる一元的な窓口の存在が必要。
- ・当面は県と市町が連携し、関係者の自助努力を求めたうえで、取組全体の把握とプロモーション等、主導。
- ・中長期的には、行政から離れて、“とこわか(常若)ワーケーション”全体を推進する組織の自立化。